

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284098

研究課題名(和文) 日本中世「地下文書」論の構築 - 伝来・様式・機能の分析を軸に -

研究課題名(英文) The construction of "Jige Monjyo" theory in the Middle Ages Japan-centering on the analysis of the introduction, style and function-

研究代表者

春田 直紀 (HARUTA, Naoki)

熊本大学・教育学部・教授

研究者番号：80295112

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,000,000円

研究成果の概要(和文)：公権力の発給文書を基準にした古文書学の様式論では、荘園・公領の現地(地下)に残された文書の多くがイレギュラーな文書とみなされ、正当に評価されてこなかった。そこで、本研究では地域社会の多様な社会集団が作成・管理した文書のあり様をトータルに把握する分析概念として「地下文書」という研究用語を定立し、日本中世の「地下文書」の全体像を浮き彫りにすることを目指した。成果としては、史料用語としての「地下文書」の意味と成立を確定した上で、地下文書独自の様式展開、地下での文書作成の作法と執筆者、地下における文書の機能・役割、地下文書の保管形態、地下文書の二次的機能による伝来といった諸点が解明された。

研究成果の概要(英文)：In the style theory of the ancient manuscripts based on citizenship Power's issuance documents, many of the documents left in the locale of the manor and the public territory were considered to be irregular documents, and have not been duly evaluated. In this study, we triangular position the research term "Jige Monjyo" as an analysis concept to grasp the document that the various social groups of a local society created and managed in total. The Japan aimed to highlight the whole picture of the medieval "Jige Monjyo". As a result, after determining the meaning and the approval of the "Jige Monjyo" as the historical documents, the Jige Monjyo's original style development, of document creation in the basement, the function and role of documents in the basement of, the storage form of the Jige Monjyo, The points such as the introduction by the secondary function of the Jige Monjyo has been clarified.

研究分野：日本中世史

キーワード：中世地下文書 史料論 原本調査 村落定書 日記 地下帳簿 売券 家印

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 古文書学の二つの潮流:「地下文書」論の構築を目指す本研究の学術的背景として、古文書学の二つの潮流が抱える本質的な問題点があった。第一の潮流である文書様式論は、公権力が発給する下達文書の変遷を軸に構成されており、公家様・武家様以外の観点を欠いている。そのため、「地下」で作成された独自の様式による文書の性格が明らかにされることはなかった。第二の潮流は文書管理学の流れである。惣村の文書管理については体系的な研究もみられるが、他方で荘官層や土豪・名主層などの「地下」諸階層が作成した文書の管理・伝来に関する研究は乏しい。その背景には、残された文書群の整理を主目的とする文書管理学的方法がもつ本質的な問題がある。以上の問題点をふまえると、「地下」において創出され独自に展開した文書様式を具体的に跡づけるとともに、散在した「地下」諸階層の文書の全体を把握し評価することが要請されることとなる。

(2) 本研究メンバーによる研究蓄積: 菌部寿樹は、惣村文書の形成を荘園文書の集積と在地慣行の文書化という二つの流れの中で位置づけ、その後榎原雅治は惣村における文書様式の独自の展開を跡づけた。また、湯浅治久は中世後期の「地下」帳簿が百姓結合のみならず寺僧集団など在地の多様な社会集団によって作成され、領主との合意形成のために機能したと論じた。中世前期についても、春田直紀が地頭代・荘官層が在地支配にあたって「地下」独自の文書様式を創出していた様相を明らかにし、高橋一樹も鎌倉期の地頭代や公文の作成文書を分析し、国家中枢に起点をもつ下達文書のフォーマットが、地域社会に蓄積された行政能力を背景に受容されたと論じた。一方、小川弘和は東寺の文書群に包摂された公文伝来の文書群を素材に、権利が文書化していく過程を描出している。このように本研究のメンバーの研究成果により、「地下」独自の文書様式や機能の展開が中世前期・後期を通してみられた事実は明らかにされていたが、「地下文書」の全体像とその中世を通じた展開は依然として未解明の課題として残されていたのである。

## 2. 研究の目的

中世日本の「地下」(荘園・公領の現地)には、中央権門が発給した文書を素材に構築されてきた今までの古文書学では解けない「地下文書」の世界が広がっていた。この前提理解のもと、「地下」で作成・集積された文書群の伝来・様式・機能について跡づけ、「地下文書」の全体像を明らかにする「地下文書」論の構築を目指す。現在「地下」の文書研究は、中央の荘園文書体系が受容される過程で生成された惣村文書論を軸に進展しているが、「地下」には多様な文書の作成・管理主体が存在し、各主体が作成した文書が

様式的にも機能的にも相互に影響しあう中で「地下文書」の世界が形成されたと考えられる。そこで、本研究では「地下」の諸階層が作成・伝来した文書を分析し、それらの相互比較を通して中世「地下文書」の全体像を浮き彫りしていくことを目的とする。

## 3. 研究の方法

日本中世「地下文書」の具体像を多角的に明らかにするために、惣村文書に加え、研究対象が乏しい荘官層(公文など)浦刀祢家、土豪・名主層や在地寺社が作成した文書と、これらの家や寺社に集積された伝来文書群について研究する。研究方法としては以下の四つのアプローチを試みた。

(1) 「地下文書」の語義と成立に関する研究: 地下文書という研究用語を定立するにあたり、史料用語としての「地下」そして「地下文書」の語史的成り立ちを明らかにするとともに、実体としての地下文書の成立過程を跡づけていく。

(2) 地下文書を代表する史料類型に関する研究: 公権力の発給文書を基準とした古文書学の様式論にとらわれず、地下の社会の現実に規定された文書様式と機能の展開を跡づけることで、地下文書を代表する史料類型ごとにそれぞれの基本的性格を見いだしていく。

(3) 地下文書の原本調査の実施: 地下文書の特質をふまえた固有の史料論を展開するためには、原本調査による知見が不可欠となる。原本調査では、対象となる文書の事前検討を行った上で、文書の形態(料紙・筆墨・筆跡・花押・印章・封式など)にかんする調書を作成し、その知見をもとに明らかになった事実をもとに研究を進める。

(4) 地下文書論の射程を広げる研究: 地下文書論が史料論のフロンティアとしてどのような可能性をもつのか、金石文・木札、東国、浦、イングランドという四つの素材ないし場に即して探っていく。

## 4. 研究成果

本研究の成果は、毎年6月と10月に開催した公開研究会(第1回~第7回中世地下文書研究会)で逐次発表して、議論を積み重ねた上で、最終年度である2017年の5月に論集『中世地下文書の世界 史料論のフロンティア』(勉誠出版)を刊行して公表するとともに、同年10月には京都大学総合博物館で公開シンポジウム「中世地下文書の世界」を開催し、本研究の総括的議論を行った。以下では、研究成果を集成した論集『中世地下文書の世界 史料論のフロンティア』に収録された論文の論点を列挙していく。

(1) 「地下文書」の語義と成立に関する研究: 佐藤雄基「「地下」とは何か」は、史料用語

としての「地下文書」が、鎌倉後期の荘園制変質のもとで中央の領主層から注目されるようになった荘園現地の文書のまとまりを指す語であることを明らかにした。小川弘和「地下文書の成立と中世日本」は、実体としての地下文書自体は荘園制の形成とともに成立したことを、鎌倉時代初期の文例集により論証した。地下のリテラシーの源泉を小川は、受領制と「随近在地」に見る。10世紀東アジアの激動を経た日本では、受領制に結実する流動化した社会関係の再構築に文書が不可欠となったが、その必要は「随近在地」と呼ばれた地域社会の諸関係形成でも同じで、律令的文書主義の下降浸透だけでは説明できない内在的契機が歴史的前提となって地下文書は成立したとされる。

(2) 地下文書を代表する史料類型に関する研究：藺部寿樹「村落定書」は、村落定書が現状記録的な置文から現状変更的な定書に変化した背景を、15世紀の社会情勢の流動化に求めた。似鳥雄一「日記と惣村 中世地下の記録論」は、日記の文書群横断的な比較考察により、各村落が直面していた課題や時代変化が日記の内容や形態あるいは残存状況に反映していることを明らかにした。榎原雅治「荘官家の帳簿からみる荘園の実相 領主の下地中分と現地の下地中分」は、同じ荘園の土地帳簿でも領家伝来の帳簿と荘官家の実務帳簿とでは情報の内容や質が異なることを指摘。後者の地下帳簿の分析から、領主クラスの帳簿では見えてこない荘園の実相に迫った。窪田涼子「村の寄進状」は、様式がないとされる村の寄進状について、構成要素の共通性を探るなかで、寄進物件の移動に関する二つの契約（世俗間＋寄進者と仏神間）を含む文書と、その基本的性格を導き出した。池松直樹「中世村落の祈祷と巻数」は、寺社による祈祷の証である巻数が、村落においては巻数板とともに地域を守る役割を果たす地下文書として機能していたことを示した。熱田順「偽文書作成の意義と効力 丹波国山国荘を事例に」は、偽文書が地下で作成された背景に新たな由緒の創造があったことを指摘し、由緒書とセットとなって人びとの意識構造を支えた点に偽文書の意義を認めた。松本尚之「『今堀日吉神社文書』における端裏書の基礎的考察」は、中世を通じて券文類の管理に用いられた端裏書を手がかりに、今堀郷の人々が重視した情報を析出した。

(3) 地下文書の原本調査に基づく研究：朝比奈新「大嶋神社・奥津嶋神社文書」は、売券・寄進状の執筆者が契約までの一連の過程を担った実務能力に長けた人物であったことを筆跡を手がかりに証明。また、花押や略押の観察から、花押の統一や継承が荘官層や村人の間でなされていた可能性や、略押使用における住民各人の役割を明らかにした。佐

藤雄基・大河内勇介「秦家文書 文書調査の成果報告を中心に」では前半で佐藤雄基が、上申文書の転用による文書作成、正文・案文の区別の曖昧な文書を作成し文書利用の世界を広げたこと、紛争解決の記憶をとどめるため作成した仮名書きの下達文書など、地下文書特有の利用実態を析出した。後半では大河内勇介が、古文書学における花押と略押の二項対立的理解を批判し、家印・花押・略押・印鑑の使い分けが地下の世界で行われていたことを論証した。呉座勇一「王子神社文書」は、原本調査で見いだされた銭主（貸借関係の貸主）の署判と借主の連署が一紙に同筆で書かれた預け状について分析。呉座は、文書交換後に手元の預け状の案文を作成し、借主の名を記すことで預り状の案文の代替としたと想定している。一見正しい様式から逸脱したかにみえる地下文書も、現物観察に基づき機能面から考察すると正確な理解に至ることを示す論考である。渡邊浩貴「間藤家文書 近世土豪の由緒と中世文書」は、地下文書が中世における発給当初の機能とは別に、近世に入り由緒形成と連動して、それを担保する存在としての機能が上書きされ伝来した事実を、伝来過程の復元から明らかにした。大村拓生「禅林寺文書 売券の観察から」は、文書一点一点の現行形態がどのように成立したかを、売券の作成・保管・再移転・照合などのプロセスの復元から跡づける。その結果、正文を浄書した案文の意義や仲介者による執筆の可能性などが見いだされた。坂本亮太「栗栖家文書 署判と由緒」は、中世前期の在庁層の系譜を引く栗栖家の文書が後世、由緒の確認・再生産という二次的機能を帯びて伝来したこと。この由緒を示す機能は、栗栖家と婚姻関係にある周辺在地領主層にも及んだことを署判に注目することで論証した。山本倫弘「大宮家文書 春日神人と在地社会の接点」も、中世文書が近世に家の由緒を伝える史料として保管され、意図的改編を含め政治的に利用された事実を示している。

(4) 地下文書論の射程を広げる研究：高橋一樹「金石文・木札からひらく『地下文書』論」は、紙を媒体としない文字列史料である金石文・木札を手がかりに、「場と密着しながら、文書の機能に最適な支持体（媒体）がモノの特性をも加味しながらフレキシブルに選択され」た点に地下文書の特質を見いだす。そして、地下のリテラシーは、統治のツールで形式にこだわる文書の本質を換骨奪胎しながら、文書をゆるやかに作り・使うところにあったと指摘した。古文書学が前提としてきたリテラシーの下降・分散論を根底から相対化し、地下の社会のメディアとリテラシーを総体として解明するという点において、地下文書論は史料論のフロンティアに立つことができる。湯浅治久「東国における『地下文書』の成立 『香取文書』の変化の諸相」は、東国社会や権門寺社において

も一定の条件がそろえば地下文書が成立する過程を『香取文書』を素材に跡づけた論考である。その条件とは、書面を扱う社会的階層の拡大であり、背景として地域社会諸階層の権利の重層化による権利主張が想定されている。春田直紀「浦刀祢家文書の世界」は、中間層の浦刀祢家の文書分析から、史料用語の「地下文書」が登場する以前から権門領主の発給文書とは異なる在地に密着した下達文書の様式と機能の展開があり、浦刀祢家・百姓等による文書の二次利用もあったことを解明。支配文書の集積が地下文書の創出を促し、やがて文書様式に由来しない家印が地下文書の署判に準用されていく過程も描いている。鶴島博和「我、鄙のもの、これを証す」は、地下文書を「中央権力の統制から一定自立して作成された文書」と定義するならば、10世紀のイングランドにも告知文書という該当するものがあると指摘する。鶴島が取り上げた告知文書には「鄙のもの」と名乗る証人が署名するが、日本の「地下人」に通じる存在といえよう。また、その文書自体も王文書の様式になぞらえ、国王集会での同意という体裁をとりつつも、実際には地域集会での紛争解決を経て作成された当事者間の同意書であり、地域のもつ社会的調整力の痕跡が残ると指摘され、日本の地下文書との共通性を読みとることができる。鶴島が分析した事例は、地下文書論が提起する方法が日本史にとどまらない汎用性をもつことを示唆しているのである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計21件)

園部寿樹、資料紹介 丹波国山国荘井戸村江口家の木印について、山形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告、査読無、45号、2018、37-40  
<http://id.nii.ac.jp/1425/00000341/>

佐藤雄基、文書史からみた鎌倉幕府と北条氏 - 口入という機能からみた関東御教書と得宗書状 -、日本史研究、査読有、667号、2018、24-48

坂本亮太、熊野水軍小山家の資料(3) - 久木小山家文書(1) -、和歌山県立博物館研究紀要、査読無、24号、2018、44-68

小川弘和、豊後の「凶田帳」と所領体制、九州史学、査読有、2017、1-20

坂本亮太、村の牛玉法印、民俗研究、査読有、29号、2017、341-371

<http://id.nii.ac.jp/1391/00019099/>

坂本亮太、熊野水軍小山氏をめぐる資料(2) - 神宮寺小山家文書 -、和歌山県立博物館研究紀要、査読無、23号、2017、70-98

園部寿樹、丹波国山国荘における木印署判について、米沢史学、査読無、32号、2016、163-207

湯浅治久、中近世移行期における社会編成と諸階層、日本史研究、査読有、644号、2016、3-23

春田直紀、鯖街道誕生史 - 戦国期京都人が求めた若狭湾の美物 -、福井県立文書館研究紀要、査読無、13号、2016、1-11

<https://karin21.flib.u-fukui.ac.jp/repo/TN00010183>

坂本亮太、熊野水軍小山氏に関する資料、和歌山県立博物館研究紀要、査読無、22号、2016、1-32

青柳周一、松井直人、菅浦村の寛保三年争論関係史料(二)、研究紀要(滋賀大学経済学部附属史料館)、査読無、49号、2016、119-135

<http://hdl.handle.net/10441/14629>

橋本道範、中世菅浦の漁業権 - 応永四年「堅田証状」の再検討 -、研究紀要(滋賀大学経済学部附属史料館)、査読無、49号、2016、69-84

<http://hdl.handle.net/10441/14633>

朝比奈新、荘園鎮守・荘園祈禱所と地域社会、鎌倉遺文研究、査読有、36号、2015、1-28

園部寿樹、村落定書追考、米沢史学、査読無、31号、2015、112-130

似鳥雄一、戦国期惣村の生産・商業・財政 - 菅浦と浅井氏・竹生島の関係をめぐる -、日本史研究、査読有、632号、2015、1-26

佐藤雄基、起請文と誓約 - 社会史と史料論に関する覚書、歴史評論、査読有、779号、2015、32-5

佐藤雄基、日本中世前期の文書様式とその機能 - 下文・奉書の成立を中心にして -、史苑、査読有、75巻2号、2015、203-230  
[info:doi/10.14992/00011016](http://doi.org/10.14992/00011016)

青柳周一、菅浦文書を読み直す、滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要、査読無、48号、2015、47-58

<http://hdl.handle.net/10441/14428>

山田徹、室町時代の支配体制と列島諸地域、日本史研究、査読有、631号、2015、27-52

窪田涼子、如法経信仰をめぐる財と村落 - 近江国蒲生郡を中心として -、史苑、査読有、75巻1号、2015、82-106

[info:doi/10.14992/00010791](http://doi.org/10.14992/00010791)

② 園部寿樹、中世における村落定書の成立と変遷 - 文書様式の観点から -、米沢史学、査読無、30号、2014、74-111

[学会発表](計33件)

佐藤雄基、文報告に対するコメント : 日本史の視点から、国際シンポジウム「史料形態からみた日本・朝鮮・ベトナム比較史の試み」、2018年2月22日、新潟大学(新潟市)

春田直紀、中世地下文書論の方法・成果・課題、シンポジウム「中世地下文書の世界」、2017年10月28日、京都大学総合博物館(京

都市)  
佐藤泰弘、地下文書の起源をめぐって、シンポジウム「中世地下文書の世界」、2017年10月28日、京都大学総合博物館(京都市)  
村石正行、中世の契約と地下文書の作成、シンポジウム「中世地下文書の世界」、2017年10月28日、京都大学総合博物館(京都市)  
春田直紀、中世地下文書研究の成果と課題、第7回中世地下文書研究会、2017年6月18日、立教大学(東京都)  
坂田聡、コメント『中世地下文書の世界』、第7回中世地下文書研究会、2017年6月18日、立教大学(東京都)  
村上絢一、三木家文書調査報告、第7回中世地下文書研究会、2017年6月18日、立教大学(東京都)  
池松直樹、菅生家文書調査報告、第7回中世地下文書研究会、2017年6月18日、立教大学(東京都)  
大村拓生、売券再考 - 禅林寺文書の調査を手がかりに -、第6回中世地下文書研究会、2016年10月10日、大阪市立総合生涯学生センター(大阪市)  
榎原雅治、荘官家の帳簿からみる下地中分の実像、第6回中世地下文書研究会、2016年10月10日、大阪市立総合生涯学生センター(大阪市)  
坂本亮太、栗栖家文書の特質 - 紛失状をめぐって -、第6回中世地下文書研究会、2016年10月10日、大阪市立総合生涯学生センター(大阪市)  
鶴島博和、我ら、鄙のもの、これを証す - 10世紀中葉のイングランドにおける紛争解決 -、第6回中世地下文書研究会、2016年10月10日、大阪市立総合生涯学生センター(大阪市)  
高橋一樹、中世地下文書論の一視角、第5回中世地下文書研究会、2016年6月19日、立教大学(東京都)  
小川弘和、「地下文書」の成立をめぐって、第5回中世地下文書研究会、2016年6月19日、立教大学(東京都)  
熱田順、偽文書作成の意義と効力 - 丹波国山国荘を事例に -、第5回中世地下文書研究会、2016年6月19日、立教大学(東京都)  
山田徹、正平二十二年河内国若江郡某荘田畠注進状について、第5回中世地下文書研究会、2016年6月19日、立教大学(東京都)  
園部寿樹、丹波国山国荘における木印署判について、第5回中世地下文書研究会、2016年6月18日、立教大学(東京都)  
呉座勇一、一揆形状の形態論・伝来論構築のための予備的考察、東北中世史研究会、2016年1月11日、戦災復興記念館(仙台市)  
呉座勇一、王子神社文書の原本調査成果に

ついて、第4回中世地下文書研究会、2015年10月12日、機関紙会館(京都市)  
渡邊浩貴、間藤家文書の原本調査成果について、第4回中世地下文書研究会、2015年10月12日、機関紙会館(京都市)  
②1 似鳥雄一、中世地下日記の様式と機能、第4回中世地下文書研究会、2015年10月12日、機関紙会館(京都市)  
②2 佐藤雄基、秦文書にみる地下文書の様式と機能 - 秦文書の調査報告を中心に、第3回中世地下文書研究会、2015年6月7日、立教大学(東京都)  
②3 湯浅治久、東国「地下文書」としての「香取文書」について - 帳簿論・土豪論・年貢論 -、第3回中世地下文書研究会、2015年6月7日、立教大学(東京都)  
②4 園部寿樹、村落定書追考、第3回中世地下文書研究会、2015年6月6日、立教大学(東京都)  
②5 春田直紀、中世のムラ研究と史料論 - 肥後国の事例を素材に -、第5回「ムラの戸籍簿」研究会シンポジウム、2015年3月29日、立命館大学(京都市)  
②6 榎原雅治、イエール大学所蔵「平氏文書」について、Treasures from Japan: An Conference on Pre-Modern Book and Manuscripts in the Yale University Library(招待講演)、2015年3月5日、イエール大学バイネッケ図書館(アメリカ合衆国コネチカット州)  
②7 佐藤雄基、鎌倉期の「地下」について、鎌倉遺文研究会第207回例会、2015年2月5日、早稲田大学(東京都)  
②8 春田直紀、熱田順、朝比奈新、似鳥雄一、大嶋神社・奥津嶋神社文書の原本調査成果について - 村落定書・寄進状・売券・日記の検討 -、第2回中世地下文書研究会、2014年10月13日、機関紙会館(京都市)  
②9 大村拓生、岡田家文書の構成と特質、第2回中世地下文書研究会、2014年10月13日、機関紙会館(京都市)  
③0 山本倫弘、中世前期の「給主」と在地社会、第2回中世地下文書研究会、2014年10月13日、機関紙会館(京都市)  
③1 高橋一樹、コメント(シンポジウム「ユーラシア東西における古文書学の現在」)、2014年度立教史学会大会、2014年6月21日、立教大学(東京都)  
③2 春田直紀、中世地下文書論の構築に向けて、第1回中世地下文書研究会、2014年5月24日、武蔵大学(東京都)  
③3 園部寿樹、中世における村落定書の成立と変遷 - 文書様式の観点から -、第1回中世地下文書研究会、2014年5月24日、武蔵大学(東京都)  
〔図書〕(計10件)  
似鳥雄一、吉川弘文館、中世の荘園経営と惣村、2018、390  
春田直紀(編)、勉誠出版、中世地下文書

の世界 - 史料論のフロンティア、2017、310  
榎原雅治、岩波書店、室町幕府と地方の社会、2016、249

小川弘和、高志書院、中世的九州の形成、2016、256

榎原雅治 他、勉強出版、イェール大学所蔵 日本関連資料 研究と目録、2016、664  
佐藤雄基 他、竹林舎、生活と文化の歴史学 6 契約・誓約・盟約、2015、496

高橋一樹 他、岩波書店、岩波講座日本歴史 第21巻 史料論、2015、299

小川弘和、春田直紀 他、高志書院、中世熊本の地域権力と社会、2015、409

湯浅治久 他、岩波書店、岩波講座日本歴史 第9巻 中世4、2015、314

高橋一樹 他、吉川弘文館、契約と紛争の比較史料学 - 中近世における社会秩序と文書 -、2015、362

#### 〔産業財産権〕

出願状況 (計0件)

取得状況 (計0件)

#### 〔その他〕

ホームページ等

なし

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

春田 直紀 (HARUTA, Naoki)

熊本大学・教育学部・教授

研究者番号： 80295112

##### (2) 研究分担者

榎原 雅治 (EBARA, Masaharu)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号： 40160379

小川 弘和 (OGAWA, Hirokazu)

熊本学園大学・経済学部・教授

研究者番号： 10320417

佐藤 雄基 (SATO, Yuki)

立教大学・文学部・准教授

研究者番号： 00726573

園部 寿樹 (SONOBE, Toshiki)

山形県立米沢女子短期大学・日本史学科・教授

研究者番号： 10202144

高橋 一樹 (TAKAHASHI, Kazuki)

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号： 80300680

湯浅 治久 (YUASA, Haruhisa)

専修大学・文学部・教授

研究者番号： 70712701

#### (3) 連携研究者

青柳 周一 (AOYAGI, Shuichi)

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号： 40335162

鶴島 博和 (TSURUSHIMA, Hirokazu)

熊本大学・教育学部・教授

研究者番号： 20188642

橋本 道範 (HASHIMOTO, Michinori)

滋賀県立琵琶湖博物館・研究部・主任学芸員

研究者番号： 10344342

水野 章二 (MIZUNO, Shoji)

滋賀県立大学・人間文化学部・教授

研究者番号： 40190649

山田 徹 (YAMADA, Toru)

同志社大学・文学部・助教

研究者番号： 50612024

#### (4) 研究協力者

朝比奈 新 (ASAHINA, Arata)

熱田 順 (ATSUTA, Jun)

池松 直樹 (IKEMATSU, Naoki)

大河内 勇介 (OOKOUCHI, Yusuke)

大村 拓生 (OHMURA, Takuo)

窪田 涼子 (KUBOTA, Ryoko)

呉座 勇一 (GOZA, Yuichi)

坂田 聡 (SAKATA, Satoshi)

坂本 亮太 (SAKAMOTO, Ryota)

佐藤 泰弘 (SATO, Yasuhiro)

似鳥 雄一 (NITADORI, Yuichi)

長谷川 賢二 (HASEGAWA, Kenji)

菱沼 一憲 (HISHINUMA, Kazunori)

松本 尚之 (MATSUMOTO, Takayuki)

村石 正行 (MURAIISHI, Masayuki)

村上 絢一 (MURAKAMI, Junichi)

山本 倫弘 (YAMAMOTO, Michihiro)

渡邊 浩貴 (WATANABE, Hiroki)